

質疑及び一般質問

令和6年9月25日、26日、30日に開催された質疑及び一般質問では、次の議員が質問を行いました。各議員の質問の中から1問をピックアップし、その要旨を掲載します。

CHECK! 白熱議論を映像でご覧ください!

下の各議員の横にある二次元コードから、掲載の質疑及び一般質問の映像を見ることができます

9月25日(水)



穂積 昌信 自由民主党
(太田市)



▶ぐんまこどもの国児童会館について

Q ぐんまこどもの国児童会館のリニューアルについて、進捗状況はどうか。また、今後の予定を伺いたい。

A 生活こども部長

県民から寄せられた意見等を踏まえ、リニューアルに係る基本方針を①児童会館の「シンボル」の創造、②わくわくできる遊びの空間の創出、③こどもが企画・運営に参画、④公園との遊びの連携の4つの柱にまとめた。今後、展示内容や施設整備の方針を具体化していく。県民の皆様、これまで以上に愛される、よりよい施設として生まれ変わるよう、しっかりと検討を進めたい。



井田 泰彦 つる舞う
(桐生市)



▶県で設置している基金の運用について

Q 基金の運用実績はどうか。少しでも有利な運用方法の研究はしているのか。

A 会計管理者

群馬県では令和5年度末時点で29の基金が設置されており、残高は2,251億円となっている。このうち988億円は債権、1,263億円は預金により運用しており、これらの令和5年度の運用益は8億9,900万円であった。基金の運用は安全性を確保した上で、より多くの運用益が得られるよう効率的な運用に努めており、今後も継続して最新の知識や情報収集を行い、運用益の確保に努めてまいりたい。



追川 徳信 自由民主党
(高崎市)



▶群馬県内の道路の除草について

Q 車道や歩道の除草のため、道路の維持管理予算を拡充する必要があると考えるが、県の取組について伺いたい。

A 県土整備部長

今年は猛暑の影響で歩道が雑草に覆われ、車から歩行者が見えにくく危険との意見が多く寄せられていることから、通学路などの除草を追加で実施するため、9月補正予算案に所要額を計上したところである。今後も、より効果的な対策を確立できるよう、新たな除草対策や防草対策に関する試行・検証に取り組み、安全で快適な道路空間の確保に向け、適切な維持管理に努めてまいりたい。



後藤 克己 リベラル群馬
(高崎市)



▶公契約条例^(※1)について

Q 賃上げの好循環と社会的価値の向上を生み出すために、公契約条例を制定すべきと考えるがどうか。

A 知事

公契約条例制定の主な目的は、契約の透明性、公正性の確保や、労働環境の整備であると考え。条例の制定は、自治体が目指す政策の方向性や目標が広く県民や事業者と共有され、ともに取組を進めることができることから、政策実現のための有効な手段のひとつである。今後、課題を整理しながら、条例制定の可能性について、現行の法令との整合性も考慮しつつ、真剣に検討してまいりたい。

9月26日(木)



大和 勲 自由民主党
(伊勢崎市)



▶県営住宅について

Q 共益費を県が徴収・管理する制度が来年度から実施されるが、申込み状況について伺いたい。

A 県土整備部長

県が管理人に代わって共益費を徴収・管理できる制度を令和7年度から導入するため、令和6年3月に条例及び規則の改正を行った。申し込みには各団地入居者の4分の3以上の合意が必要で、現在のところ98団地のうち19団地から申し込みがあった。引き続き申し込みの相談を受け付けており、本制度の対象とする団地の追加等について検討を行っている。業務が適正に実施できるよう準備を進めてまいりたい。



清水 大樹 公明党
(高崎市)



▶ファシリテッドッグ^(※2)について

Q 導入の検討状況とファシリテッドッグの育成にかかる外部団体の活用について伺いたい。



A 病院局長

令和5年度に小児医療センターで開催された体験イベントでは、セラピー効果があると好意的に受け止められた。マスタープランの策定にあたって実施した部門ヒアリングにおいても、導入に前向きな意見があり、設備整備の検討を行っている。導入に向けた様々な課題を踏まえ、外部団体の活用なども含め、どのような手法で導入し、運用していくことが望ましいのか、関係部局と連携して検討してまいりたい。



矢野 英司 自由民主党
(富岡市)



▶世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の活用について

Q 富岡製糸場の動態展示の実現に向けた知事の思いを伺いたい。

A 知事

今年、世界遺産登録から10周年を迎えた。富岡製糸場の繰糸機の動態展示については、観光庁の事業を活用し、実現可能性について調査・検討を行っている。繭から糸が引かれていく様子を目で見て、機械が動く音を耳で聞く。五感を刺激する見学ができれば、生きた世界遺産としてその価値をより強く伝えることができる。動態展示の実現には、様々な課題があるが、真剣に検討したい。



大沢 綾子 日本共産党
(高崎市)



▶最低賃金について

Q 本県でも地方最低賃金審議会や労働局に対して最低賃金の大幅引上げに向けた働きかけを行うべきと考えるが、知事の思いを伺いたい。

A 知事

今年度の最低賃金の議論に関し、複数の知事が大幅引上げを求める要望を行ったことは承知している。最低賃金の大幅な引き上げは、賃金水準の底上げに繋がる一方、中小・小規模事業者に対して負担増を強いることから、労使双方の利益と影響のバランスを考慮した上で定められるべきものであり、国等への働きかけを行うことは、現状では考えていない。

9月30日(月)



鈴木 数成 自由民主党
(前橋市)



▶群馬県の教育の課題について

Q 教育現場では欠員により教員数が不足していると聞かすが、現状と県の取組を伺いたい。



A 教育長

教員の欠員状況は、9月1日現在で、市町村立学校で17名、県立学校で7名となっている。欠員解消の対策として、臨時教員の希望者を増やす取組を行っている。また、採用試験の募集人数を増やすとともに、教員の多忙化解消に向けた取組を進めている。今後も、国による産休・育休代替教員の加配定数による支援等を活用しながら、先生方が安心して働ける環境整備に取り組んでまいりたい。



あべ ともよ つる舞う
(太田市)



▶有機農産物の給食への使用促進について

Q 若い世代に有機農産物や循環型農法の重要性を知ってもらうことは大切である。学校給食に地域の有機農産物等を積極的に使用していくことは効果が大きいと考えるがどうか。

A 農政部長

県立特別支援学校に群馬県産有機農産物を提供する実証事業を、令和5年度から実施しており、生徒や教職員から好評を得ている。また、いくつかの町村の小・中学校でも県と同様の取組が始まっている。学校給食に地域の有機農産物等を使用していくことは、理解促進と活用拡大の機運醸成に大変効果的である。引き続きこの事業を進めるとともに、生産者、生産量の拡大にも取り組んでまいりたい。



入内島 道隆 自由民主党
(吾妻郡)



▶地方主権(連邦制)国家構想について

Q 権限が地方に移譲され、市民の声が届く政治になれば、地方の再生に繋がると考えるが、知事の考えを伺いたい。

A 知事

どのような体制にもメリットとデメリットがあり、大事なものは国と地方の権限のバランスである。地方分権はさらに進めるべきで、税財源の移譲などを国に働きかけていきたい。また、県民の声を聞くには政治家の努力が必要であり、知事として一生懸命吸い上げている。地方分権の不十分な点は知恵と工夫で乗り越え、地方から日本を変えていく、という気概をもって県政運営に取り組むたい。



久保田 順一郎 自由民主党
(邑楽郡)



▶千代田町と熊谷市を結ぶ利根川新橋について

Q 利根川新橋に係る現在の進捗状況と今後の事業の工程について伺いたい。



A 県土整備部長

令和6年3月に開催した地元説明会を経て、測量基準点の設置や地質調査を実施し、ドローンによる地形測量が終了した。また、新橋を含むルートを具体化するための道路予備設計にも着手した。今後、地域の声を道路計画に反映するためのアンケート調査を実施し、地域の方々と合意形成を図りながらルートを決める。引き続き、関係機関と連携及び調整しながら、調査設計等を進めてまいりたい。

※1 公契約条例…公契約とは一般的に、当事者の少なくとも一方が自治体等の公の機関である契約を指し、公契約条例とは、公契約に係る手続きを通じて、その自治体における政策を実現するために必要な事項を定める条例
※2 ファシリテッドッグ…重い病気の子どもたちに寄り添い、子どもたちとその家族の心を癒やし、闘病生活の支えになる専門的な訓練を受けた犬